

藤原鋼材

座間(神奈川)の厚板加工増強

6KWファイバーレーザー導入

既存のガス、プラズマ機合わせ 加工量25%増へ

各種鋼材販売・厚板溶断業の藤原鋼材(本社・東京都港区麻布十番、社長・藤原雅之氏)は、座間支店・工場で手掛ける厚板加工能力を増強した。最新型の門型ファイバーレーザー切断機(発振器出力6KW)を導入し、レーザーと台体制を構築。レーザー加工での厚物領域を板厚25mm前後まで拡大した。需要期の到来で営業面も強化し、既存のガスやプラズマ切断機と合わせて加工量25%増を目指す。



座間支店・工場で稼働を開始した6KWファイバーレーザーと、厚物レーザー加工製品



4.4m×有効切断長13.7m、7幅材を最大で一度に4枚並べられる。

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

・4.4m×有効切断長13.7m、7幅材を最大で一度に4枚並べられる。既存の2KW発振器搭載型CO₂レーザー切断機「LMR-II-TF2000」(日酸TANA製・定盤サイズは幅3.5m×長さ20m)では板厚12mm以下だったが、6KWファイバーレーザーでは25mm厚まで(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

化し、品質および納期対応力を高める顧客満足度を向上させる狙いだ。工場ではレーザー以外

にもガス溶断機と台とプラズマ切断機1台(400A)を保有。

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

鉄鋼・流通加工

「目指せ100年企業」を掲げる藤原鋼材(本社・東京都港区麻布十番、社長・藤原雅之氏)は、座間支店・工場で手掛ける厚板加工能力を増強した。最新型の門型ファイバーレーザー切断機(発振器出力6KW)を導入し、レーザーと台体制を構築。レーザー加工での厚物領域を板厚25mm前後まで拡大した。需要期の到来で営業面も強化し、既存のガスやプラズマ切断機と合わせて加工量25%増を目指す。

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製



工場構内(天井照明灯はすべてLEDに)

「目指せ100年企業」を掲げる藤原鋼材(本社・東京都港区麻布十番、社長・藤原雅之氏)は、座間支店・工場で手掛ける厚板加工能力を増強した。最新型の門型ファイバーレーザー切断機(発振器出力6KW)を導入し、レーザーと台体制を構築。レーザー加工での厚物領域を板厚25mm前後まで拡大した。需要期の到来で営業面も強化し、既存のガスやプラズマ切断機と合わせて加工量25%増を目指す。

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)の強化 事業基盤

「目指せ100年企業」を掲げる藤原鋼材(本社・東京都港区麻布十番、社長・藤原雅之氏)は、座間支店・工場で手掛ける厚板加工能力を増強した。最新型の門型ファイバーレーザー切断機(発振器出力6KW)を導入し、レーザーと台体制を構築。レーザー加工での厚物領域を板厚25mm前後まで拡大した。需要期の到来で営業面も強化し、既存のガスやプラズマ切断機と合わせて加工量25%増を目指す。

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製



工場建屋を補強・改修



鋼材倉庫棟も順次耐震補強へ

「目指せ100年企業」を掲げる藤原鋼材(本社・東京都港区麻布十番、社長・藤原雅之氏)は、座間支店・工場で手掛ける厚板加工能力を増強した。最新型の門型ファイバーレーザー切断機(発振器出力6KW)を導入し、レーザーと台体制を構築。レーザー加工での厚物領域を板厚25mm前後まで拡大した。需要期の到来で営業面も強化し、既存のガスやプラズマ切断機と合わせて加工量25%増を目指す。

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製

座間支店(神奈川)倉庫および事務所棟で、約6000平方メートルの敷地内に厚板溶断工場(1800平方メートル)を新設した。定盤サイズは有効切断幅4.4m(切板製品納入実績は最大28mm)が対象。旺盛なレーザー切板受注量に對して1台では加工能力が追いつかず、外注委託していた分を内製